

公園内で見られる植物

写真は2月28日（日）

3月14日（土）

自然観察会で見られた植物です



サザンカ（ツバキ科）

冬の花の代表。園芸品種として改良されたものが多く、白い花を咲かせるものが多い。花がツバキに非常によく似ている。生け垣として好まれる。



オウレン (キンポウゲ科)

山地の林内に生える常緑の多年草。根茎は太く横に走る。薬草の一種



マンサク (マンサク科)

春になると『まんざく (先ず咲く)』から訛ってマンサクになったとか、枝一杯に花を咲かせるので満作という説もある。また、岡山県阿哲地方には萼が黄色で地名にちなんだ花の香りのよい、アテツマンサクがある。



ウメ（バラ科）

日本的な趣を持ち、日本を代表する花であるが、原産は中国中部。花は芳香があり普通は白色。紅色や淡紅色のものもある。果実は食用となる為、昔から保存食として重宝されたが、近年ではいろいろな調理法により食されている。



アオキ (ミズキ科)

1年中、青々としていることから付けられた。属名のアオキバ (青木葉) の方言に由来する。



コショウノキ (ジンチョウゲ科)

1～4月、枝先に芳香のある白い花を咲かせる。6月頃赤く実が熟す。コショウの名の通り辛く有毒である。



アセビ (ツツジ科)

馬が食べると酔ったようになるので、馬酔木 (アセビ) と書いた。葉はかむと苦く、煎じて殺虫剤 (ウジ虫殺し：有毒) にしていた。普通白色の花を多数つけるが、緑色や赤など変異が多い。